

報第40号

令和2（2020）年度

柏崎市教育委員会

点検・評価報告書

令和3年（2021年）9月13日提出

柏崎市教育委員会

教育長 近藤 喜祐

目 次

はじめに	P 1
総評(教育委員会事務評価委員会)	P 2 ～ 5
第1 教育委員会の会議及び委員の主な活動	P 6 ・ 7
第2 教育委員会の事務の管理及び執行状況	P 8
1 子どもや若者の「たくましさ」をはぐくむ	P 8
(1) 知徳体のバランスの取れた教育を進める	P 9 ～ 13
ア 確かな学力をはぐくむ教育の推進	
イ 豊かな心をはぐくむ教育の推進	
ウ 健やかな体をはぐくむ教育の推進	
(2) 地域ぐるみで子どもや若者を育てる	P 14 ～ 17
ア 地域に誇りと愛着の持てる教育の推進	
イ 青少年育成活動の推進と家庭教育の支援	
ウ 子どもの健全育成支援の推進	
(3) 教育環境を充実させる	P 18 ～ 21
ア 良好な教育環境の整備	
イ 教育現場の情報化の推進	
2 学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ	P 22
(1) 学びの機会を充実させる	P 23 ～ 26
ア 多様な学習・交流機会の提供	
イ 社会教育環境の充実	
(2) 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する	P 26
ア 地域づくりへの学習成果の活用	
イ 様々な主体との連携による生涯学習の充実	
3 スポーツを通じた「たくましさ」をはぐくむ	P 27
(1) スポーツによる地域づくりや生きがいづくりを進める	P 27 ・ 28
ア ライフステージに応じたスポーツの推進	
イ スポーツによる交流人口の拡大	
(2) 全国や世界に通用する競技者を育てる	P 29 ・ 30
ア 競技団体との連携の強化と指導者の養成	
イ 競技力の向上に向けた取組の推進	
ウ 施設の整備と改修	
4 歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる	P 31
(1) 歴史・文化を保全・活用し、継承する	P 32 ・ 33
ア 伝統芸能の継承	
イ 歴史・文化資産の保存と活用	
ウ 産業文化や生活文化の保存と活用	
エ 景観まちづくりの推進	
(2) 市民の主体的な文化活動を支援する	P 33 ・ 34
ア 市民の文化活動への支援	
イ 多様な文化交流の推進	
5 その他教育関係事務事業	P 34
用語解説	P 35
参考	P 36

はじめに

1 点検及び評価の背景

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づき、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっています。また、その点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

柏崎市教育委員会は、法の趣旨にのっとり、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくために、教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施しました。

2 点検及び評価の対象

評価対象の事務事業は、第五次総合計画（前期基本計画）の施策体系を基本に、柏崎市教育大綱を踏まえ、令和2年度（2020年度）に執行した事務事業のうち83事業を対象として点検及び評価を行いました。また、新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で事業の実施や施設運営を行いました。また、やむを得ず事業が中止になり、評価をすることができないものについては、評価不能としました。

<内部評価ランク>

- [S] 期待を超える成果があった。
- [A] 期待どおりの成果があった。
- [B] 期待に比べ成果が少なかった。
- [-] 新型コロナウイルス感染症によりやむを得ず事業が中止になり、評価することができない。

3 学識経験者の知見の活用

点検及び評価に当たっては、その客観性を確保するため、教育委員会が行った内部評価に対して、教育に関し学識経験を有する者で組織する教育委員会事務評価委員会に諮問し、御意見をいただきました。

総 評

令和2年度（2020年度）に柏崎市教育委員会が執行した事務の状況及び内部評価について点検及び評価を行った。評価のポイントは、柏崎市第五次総合計画前期基本計画と柏崎市教育大綱を踏まえて、適切に事業が行われているかを主眼とした。評価に当たっては、教育委員会担当課から内部評価の聞き取りを計2回に分けて行った。

事務評価委員会として、以下のとおり総評する。

総合計画の基本方針に基づき、知徳体のバランスの取れた教育や教育環境の充実により、子どもたちの健全育成を図るとともに、子どもから大人まで全ての市民が学びやスポーツに親しむことにより、たくましいまちをつくらしている。

事務評価委員会では、教育委員会の83の事務事業について点検及び評価を行ったところ、実施された事業は、おおむね期待した成果があるものと認めた。

事業別の評価結果は、次のとおりであった。

Sランク	・・・	4	事業
Aランク	・・・	66	事業
Bランク	・・・	9	事業
－（評価不能）		4	事業

本市の教育の充実を図るため、令和2（2020）年度は、教育ICTの導入やジュニア世代のスポーツ競技力の向上、講座等を活用した学習活動の活性化を進めた。また、各教育分野において、新型コロナウイルス感染症の影響により中止や規模の縮小を余儀なくされた事業が散見されたが、そのような状況下であっても、十分な感染対策を行った上での事業の実施や代替事業の実施など、制約がある中で新たな事業の形を工夫し、確立しているものも見られた。

今後の教育委員会の事業実施に当たっては、昨年から続いているコロナ禍等、常に変化する社会の現状や課題の把握に努め、より一層市民のニーズに合うよう工夫を加えていく必要がある。その上で、事業を適正かつ効果的に実施することが求められる。

項目別の評価は、次のとおりである。

<事務評価委員会における項目別の主な評価等>

第1 教育委員会の会議及び委員の主な活動について (P6-7)

教育の現状や課題の把握に努め、適切に活動していると認められる。

- ・児童生徒数の減少や学校におけるいじめや不登校等の諸課題について、総合教育会議で市長との意見交換を行い、今後の教育環境の課題の把握に努めている。子どもたちを取り巻く環境は常に変化していくが、子どもたちが安心して学ぶことができるよう検討を続けていくことを期待する。

第2 教育委員会の事務の管理及び執行状況

1 子どもや若者の「たくましさ」をはぐくむ

(1) 知徳体のバランスの取れた教育を進める (P9-13)

期待した成果があるものと認められる。

- ・保護者の了承を得られたことから、標準学力検査(NRT)の結果を把握できるようになり、児童生徒の学力実態が明らかになった。今後の指導にいかしていただきたい。
- ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大対策として、対応マニュアルに基づく適切な対応を心がけていただきたい。また、事業や会議等をリモートで行う場合も参加者に十分意思疎通ができるよう配慮をしていただきたい。
- ・子どもたちの食物アレルギーや食事中の事故等、特に注意していく必要がある。
- ・特別な支援が必要な児童生徒に対する幼稚園、保育園段階からの状況把握や、保護者と十分に相談した上での学習支援を期待する。

(2) 地域ぐるみで子どもや若者を育てる (P14-17)

期待した成果があるものと認められる。

- ・児童生徒が、幼いきょうだいの世話をしたり、病気のある家族や高齢者の介助をしたりするなど、家庭内で担う役割が増え、学習活動に支障を来してしまうケースもあると聞いている。明確な基準がなく対応が難しいと思うが、児童生徒、家庭の話聞きながら適切に対応をしていただきたい。
- ・学区の広域化により、地域ぐるみでの教育活動における、学校と地域との連携がより一層求められている。子どもたちにとっては、より広い地域に目を向けることができ、学習活動の幅が広がるのは利点であるため、学校、地域が協力して支援していく必要がある。
- ・青少年育成センターが廃止されたが、家庭、地域、学校、関係機関が連携し、引き続き街頭での挨拶や声掛け、子どもたちの見守りを行っていく必要がある。

(3) 教育環境を充実させる (P18-21)

期待した成果があるものと認められる。

- ・子どもたちが安全に安心して通学できるよう、通学路の安全確保を引き続き進めていく必要がある。
- ・iPadの配付により子どもたちの学習の幅が大きく広がったが、不適切な使用による危険に巻き込まれることを防止するため、使用方法やルールを明確に定め、子どもたちが安全に学習できるような環境整備を期待する。また、そのためには学校と家庭との連携も大切である。
- ・iPadなどを活用しながらも、読み書き計算といった基礎・基本を大事にした上で、今後の学習活動の更なる展開を期待したい。

2 学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ

(1) 学びの機会を充実させる (P23-26)

期待した成果があるものと認められる。

- ・成人式を始めとするイベントの中止が相次いでいる中で、昨年度の動画配信事業は、新成人の祝福の手法として高く評価する。今後も必要に応じて、このような事業の実施を検討していただきたい。
- ・公民館講座において、より多くの方に学習機会を提供できるよう、魅力ある講座内容の模索、検討を続けていただきたい。また、コースごとの年齢制限にとらわれず、状況に応じた柔軟な対応を期待したい。
- ・プラネタリウムについて、感染予防を行った上で投影を行い、学校教育活動にも寄与している。投影の工夫や学芸員の解説等により好意的な意見も寄せられていることから、今後も安全に利用できる環境整備、更なる工夫を期待したい。

(2) 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する (P26)

期待した成果があるものと認められる。

- ・市民大学は、市民が地域の実情や課題を把握し、地域づくりへの関心を高めることにつながっている。学んだ内容を地域づくりへ活用し、地域社会の発展につながることを期待する。

3 スポーツを通じた「たくましさ」をはぐくむ

(1) スポーツによる地域づくりや生きがいづくりを進める (P27・28)

期待した成果があるものと認められる。

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なスポーツ大会が中止を余儀なくされた。今後大会を開催する上で、参加人数や開催場所、実施する際のルール等を設定し、十分な感染対策を行う必要がある。
- ・部活動指導員の選定について、その人の人となりを見極め、必要に応じて情報収集を行った上で選定を行う必要がある。

(2) 全国や世界に通用する競技者を育てる (P 29・30)

期待した成果があるものと認められる。

- ・水球のまち柏崎として、郵便ポストのラッピング、マンホールの水球デザイン等取り組んできたが、シンボルでもあるアクアパークの改修も関係機関と連携して進めていただきたい。今後、更に多くの人々が水球のまちを意識できるような取組を期待したい。

4 歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる

(1) 歴史・文化を保全・活用し、継承する (P 32・33)

期待した成果があるものと認められる。

- ・重要無形民俗文化財に指定されている綾子舞について、小・中学生以上への働きかけ、市内全域への働きかけを効果的に行い、市の文化遺産として多くの伝承者を育成していくことを期待したい。また、各地域における様々な伝統行事があるため、地域に寄り添った継承活動を行っていく必要がある。

(2) 市民の主体的な文化活動を支援する (P 33・34)

期待した成果があるものと認められる。

- ・アルフォーレは多くの市民の方が利用する大切な活動の場となっている。使用ルールを守りながら、引き続き適切に使用されていくこと、管理されていくことを期待する。

5 その他教育関係事務事業 (P 34)

期待した成果があるものと認められる。

- ・新型コロナウイルス感染症に関する誹謗中傷など、新たな問題が発生することが予想されるため、今後も継続的な人権同和教育及び啓発活動に取り組んでいく必要がある。

令和3年(2021年)7月30日

柏崎市教育委員会事務評価委員会

委員長 吉田 存 祐

副委員長 笠原 寿 雄

委 員 小 嶋 美江子

委 員 野 澤 真由美

第1 教育委員会の会議及び委員の主な活動

1 教育委員会会議の開催状況

開催月	審議事項等				報告事項	
	条例、規則等の制定・改廃	人事案件	その他の案件	報告事項	報告事項	
4月定例会	2件 教育委員会に係る行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例施行規則の一部改正ほか	2件 スポーツ推進審議会委員の委嘱ほか	—	8件 令和2年(2020年)度柏崎市奨学生を選考結果ほか		
5月定例会	4件 柏崎市奨学金貸付条例の一部を改正ほか	2件 市立教育センター運営委員会委員の委嘱ほか	3件 新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校教育活動ほか	8件 教科書展示会の開催ほか		
6月定例会	—	2件 事務評価委員会委員の委嘱ほか	2件 令和2(2020)年度一般会計補正予算(第9号)ほか	10件 市議会6月定例会議の一般質問ほか		
7月定例会	1件 柏崎市立小・中学校管理運営に関する規則の一部改正	—	3件 令和2(2020)年度一般会計補正予算(第11号)ほか	11件 新成人フェスティバル2020の開催ほか		
8月定例会	4件 柏崎市産業文化会館設置及び管理に関する条例の一部改正ほか	—	2件 令和2(2020)年度一般会計補正予算(第12号)ほか	9件 第55回柏崎刈羽地区児童生徒科学作品展ほか		
9月定例会	1件 柏崎市学習指導員任用要綱の制定	1件 柏崎市立博物館運営協議会委員の委嘱	1件 令和2(2020)年度一般会計補正予算(第13号)	13件 市議会9月定例会議の一般質問ほか		
10月定例会	3件 柏崎市修学旅行のキャンセル料等支援補助金交付要綱の制定ほか	—	—	15件 小中学校学区外就学許可状況(4月～9月)ほか		
11月定例会	3件 柏崎市交流プラザ設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定ほか	—	5件 市内の学校で発生している新型コロナウイルス感染症ほか	14件 第22回「全市一斉地場産給食デー」の開催ほか		
12月定例会	1件 柏崎市こどもの笑顔創造プロジェクト補助金交付要綱の一部改正	—	2件 市内の学校で発生している新型コロナウイルス感染症ほか	12件 市議会12月定例会議の一般質問ほか		
1月定例会	1件 押印の義務付け省略に伴う関係規則等の一部改正	3件 令和2年度(2020年度)教育委員会表彰の被表彰者ほか	3件 令和2(2020)年度一般会計補正予算(第21号)ほか	7件 第51回新潟県ジュニア美術展覧会柏崎展の開催報告ほか		
2月定例会	4件 柏崎市就学援助事業実施要綱の一部改正ほか	—	3件 門出教員住宅の屋根雪落下による家屋物損事故に係る和解及び損害賠償額の決定ほか	7件 令和2(2020)年度柏崎市学校教育実践上の努力点実施状況調査結果一覧ほか		
3月定例会	8件 柏崎市立図書館業務専門員任用要綱の一部改正ほか	3件 令和3年度(2021年度)教育委員会事務局等の人事異動内示ほか	4件 令和2(2020)年度一般会計補正予算(第26号)ほか	10件 市議会2月定例会議の一般質問・代表質問ほか		
計	32件	13件	28件	124件		

2 学校訪問

令和2年（2020年）11月17日（火） 枇杷島小学校、新道小学校、二田小学校、南中学校

・学校訪問の趣旨

- (1) 学校訪問を通して、学校の現状や課題、小中一貫教育の取組等を把握し、教育行政に役立てる。
- (2) 学習活動の参観や教職員との懇談等を通して、教育実践の高揚を図る。

・学校訪問の概要

授業や集会など児童生徒の教育活動の参観、校長による学校運営説明、教職員との懇談、教育委員指導など

3 総合教育会議（市長と教育委員会が、市の教育や子育て施策について幅広く話し合う会議）

令和3年（2021年）2月18日（木） 市役所

議題

- (1) 児童生徒数の見込みについて
- (2) 学校における諸課題について

4 出席事業

4月：教育委員会招集校長会、第五中学校・高柳中学校校統合記念式典

5月：市功労者表彰審査会

7月：教科用図書採択協議会

2月：教育委員会表彰式

3月：小学校卒業式、中学校卒業式

1 子どもや若者の「たくましさ」をばぐむ

【第五次総合計画・前期基本計画における施策の方針】

- ① 未来の担い手となる子ども達の「生きる力」を育むため、「確かな学力」、「豊かな心」、「豊かな体」、「健やかな体」を育む知徳体のバランスの取れた教育を進める。
- ② 学校・家庭・地域の連携・協働を推進する体制を整え、子どもたちがふるさと柏崎に誇りと愛着を感じ、健やかな成長が図られるよう取り組む。
- ③ 安全・安心で快適な学校施設の整備・改修を計画的に進めるとともに、適正規模の教育環境の整備について検討する。
- ④ 情報化社会に児童生徒が適切かつ主体的に対応できるよう、ICT環境の整備と充実に取り組む。

◆ 主な事業

教育総務課

- GIGAスクール整備事業
国が推進するGIGAスクールの構想の実現のため、小学校3年生から中学校3年生までの児童生徒及び教職員に対し、iPadを合計4,766台配付した。また、家庭学習や災害等緊急時に自宅で学習できる体制を整えるため、通信環境を整っていない家庭用として、モバイルルーター（通信機器）の貸出しを始めた。
- 学校施設長寿命化事業
半田小学校の普通教室棟の改修及び空調設置の大規模改修工事（Ⅱ期）を実施し、老朽化した施設の利便性及び快適性が向上し、良好な教育環境の整備ができた。また、榎原小学校の大規模改修工事の実施設計を行った。加えて、老朽化した施設を計画的に長寿命化改修していくため、学校施設等長寿命化計画（個別施設計画）策定に係る現地調査等の策定業務委託を実施し、学校施設等長寿命化計画（個別施設計画）を策定した。
- 給食施設整備事業
西部地区学校給食共同調理場調理室のドライ化改修工事を行い、学校給食衛生管理基準に沿った衛生管理が図られ、安全で安心な給食の提供ができた。
- 給食業務運営経費
小学校20校、中学校11校及びびまなす特別支援学校へ、学校給食を提供するための維持管理運営に必要な業務を専門の業者に委託することにより、安全で円滑な運営を図れた。

学校教育課

- 指導補助事業
小・中学校24校に、前年度より3名多い41名の指導補助員を配置し、各学校の児童生徒の特性に応じ学習指導や生徒指導等の充実に向けた支援を行った。それぞれのニーズが高まる通常の学級に在籍する児童生徒に対し、授業のねらいの達成に結び付く支援が適切に行われ、児童生徒一人一人の能力を伸ばす教育が推進された。
- 特別支援学級介助事業
特別支援学級に在籍する児童が安心して充実した学校生活を送れるよう、小学校13校に、前年度より3名多い介助員33名を配置して支援した。児童の個々の特性に応じ自立に向けた身辺の介助や学習指導・機能訓練の介助等を行い、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づき教育が充実した。さらに、個々の特性に応じた細やかな支援ができたことにより、該当児童生徒の学校生活の充実につながった。
- 学校保健推進事業
学校での健康診断や健康教育に必要な消耗品を購入し、保健指導にいかすことができた。令和2(2020)年度は、健康診断時に医師等が使用するフェイスガード、グローブ等の購入や、歯科検診で使い捨て歯鏡を購入して対応したことにより、新型コロナウイルス感染症予防につながった。また、小・中学校に消毒作業員を配置し、延べ4,559回消毒作業を行ったことにより、新型コロナウイルス感染症予防、教職員の負担軽減につながった。

文化・生涯学習課

- **子どもフェスタ運営事業**
柏崎市子ども会連合会との協働により、子どもの心身の健康を増進し情操を豊かにすることを目的に、トライオオーク&こどもフェスタを開催した。新型コロナウイルス感染症の影響下ではあつたが171人の参加があり、体験活動や参加者相互の交流をおおして、青少年の健全育成に寄与することができた。なお、例年開催している「こどもフェスタ」及び「冬のこどもフェスタ」については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催を中止した。新型コロナウイルス感染症に対応した事業実施を目指し、内容の改善や更新に取り組む必要がある。
- **ジュニアリーダー養成事業**
柏崎市内の小・中学生を対象に、子ども会などでリーダーとして活躍できる知識や技能を身に付けることを目的として研修を実施した。年齢や学区の異なる28人の児童・生徒が参加し、互いに協力して活動することを通して、社会性や協調性を育むことができた。また、子どもが自ら考え、主体的に活動することを念頭に研修を進め、リーダーとしての資質を養うことにつながった。
- **図書館**
- **移動図書館事業**
移動図書館は利用者が2,432人、貸出冊数が5,991点、貸出文庫は利用団体数が81団体、貸出冊数が19,059点であった。コロナ禍のため前年度比で減少しているものの、図書館利用が困難な市民が多様な図書に出会う機会を提供し、市民の読書活動の充実を支援することができた。
- **学校読書支援員の配置**
学校読書支援員5名が20小学校を巡回した。学校読書支援員を1名増員したことにより、学校図書館の読書環境整備や児童への読書支援をより充実させることができた。特に、学習単元に合わせた教育職務支援を増やし、児童の学習意欲や読書への興味を向上させることができた。
- **ブックスタート事業**
乳児及び保護者459人に絵本918冊を配付した。感染拡大防止のため検診会場での配付は不可能だったが、郵送による配付を実施し、子どもが絵本に触れ保護者が読み聞かせを行う環境づくりができた。保護者アンケートでも「大変良い」（86%）、「絵本を活用している」（98%）の評価を得た。

**(1) 知徳体のバランスの取れた教育を進める
アイウ**

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
指導補助事業 〔学校教育課〕	114,446	109,174	小・中学校24校に、前年度より3名多い41名の指導補助員を配置し、学習指導や生徒指導等の充実に向けた支援を行った。 小・中学校7校に、3名の日本語指導員を配置し、外国にルーツをもつ児童生徒の日本語力向上に向けた支援を行った。 中学校7校に9名の部活動指導員を配置し、部活動の充実に向けた支援を行った。	○ 指導補助員の配置により、特別支援学級在籍の有無にかかわらず、特別な支援を要する児童生徒に対し、特性に応じた学びに結び付き授業支援が行われた。また、対人関係の構築が苦手な児童生徒への個別の指導・支援を充実させることができた。 日本語指導員の配置により、外国人等の日本語指導や就学支援で成果が見られた。 部活動指導員の配置により、学校教諭の負担軽減につながった。 ● 特別な教育ニーズに応じた指導・支援のために指導補助員を必要とする場面が増えている。今後も増員を検討していく。 日本語指導員は、今度も必要に応じた配置を行う。部活動指導員は、今後も継続的に関わってくれる人員の確保に努める。	S
小・中学校音楽関連事業 〔学校教育課〕	0	0	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定していた合同音楽会、音楽鑑賞会は中止となった。校内の状況に応じて合唱祭や音楽会等を実施した。	○ ー ● 感染状況を見ながら、感染防止対策を十分行った上で音楽を含む文化に触れる機会を提供できる場を検討していく。	ー

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
英語教育推進事業 〔学校教育課〕	29,697	26,088	小・中学校における英語教育と国際理解教育の充実を図るため、常勤5名(後期は4名)、非常勤2名のALT(外国語指導助手)を配置・活用した。小学校の外国語活動や中学校の英語授業で教諭とのチームティーチングなどを実施した。	○ ALTの活用により、英語によるコミュニケーション活動が活発かつ効果的に行われた。コロナ禍の影響で1名減の状況だったが、事業は予定通り実施できた。 ● 令和2(2020)年度の新学期指導要領全面実施に伴い、小学校で英語が教科化された。現在のチームティーチングによる授業数を確保するためALTの増員が必要である。	A
一般教材整備費(学校教育課) 〔学校教育課〕	13,657	13,508	小学校に、国語、算数(全学年)、社会、地図(5・6年)、理科(3～6年)のデジタル教科書及び外国語活動ピクチャカードを整備した。 中学校に、国語、社会、数学、理科、英語(いずれも全学年)のデジタル教科書を整備した。	○ デジタル教科書の整備を行い、小・中学校での活用を進め、視聴覚からの情報を得やすくなったり、みんなで一つの事象に注目できたりするなど、児童生徒の学びが一層深まった。 ● デジタル教科書活用に学校差や教師差がある。研修内容の充実や有効活用するための教員への指導を進め、より一層、学びの深まりにつなげたい。	A
科学技術教育事業 〔教育センター〕	8,300	7,084	①教職員への理科・生活科・総合・環境の専門研修・相談支援等のため、研修会を実施した(20回、受講者数100名) ②科学に対して親しみ、興味の醸成を図るため、「科学のえんま市2020Web版」等の啓発事業を5回実施した(参加者数3,780名) ③学校等の要請研修(58回)・教材機器等の貸出し(131件)・理科教育の相談支援(428件)等を通じて学校・地域への支援を行った。	○ コロナ禍の中、研修参加者は大きく減少した。しかし、遠隔型研修のノウハウ、デジタル教材の制作配信ができた。参加者の「児童生徒への指導にいかしたい」89%など満足度において高い評価を得た。 ● iPadの導入等現在の課題状況に対応した研修を実施していく必要がある。授業力向上研修・教材教具研修と遠隔型授業にも対応できる研修事業を実施していきたい。	A
教職員研修事業 〔教育センター〕	4,338	3,762	教職員の資質・能力向上のため、対面研修とZoomによる遠隔型研修を組み合わせた研修を実施した。 講座回数110回(自主・共催研修を含む。) 受講者数1,759名	○ コロナ禍ではあったが、遠隔型による新指導要領対応研修やGIGAスクール端末研修等について、多くの参加者から肯定的な評価を得た。 ● 新学期指導要領に対応した研修や分かる授業づくりを目指すとともに、GIGAスクール端末関連研修等、学校現場のニーズに応える魅力ある研修を企画・運営する必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
7 学校教育活動推進事業 〔学校教育課〕	12,130	11,807	特色ある教育活動の充実を図るため、全小・中学校に奨励金を交付し、各学校の工夫ある実践が行われた。また、NRT学力テストの経費の半額を市が負担することによって、市全体の学力の実態を把握することができた。	○ コロナ禍で制限の多い1年であったが、各学校が体験活動、キャリア教育、小・中学校と地域が連携した取組などを工夫して実践し、特色ある教育活動を推進することができた。また、NRT学力テストの結果を把握し、今後の指導にいかした。 ● 各学校が目指す子ども像を明確にし、今まで以上に工夫した取組を実践する。また、NRTテストに替わる新規実施の総合学力調査の結果を踏まえた授業改善を各学校に指導する。	A
8 食育推進事業 〔教育総務課〕 〔学校教育課〕	271	173	栄養教諭による食に関する授業や各学校での地元食材を使用した調理実習を実施し、地産地消等の食育推進の支援を図る。臨時休校や感染防止対策等の影響で、制限された調理実習等食育関連授業の実施が難しくなる中、郷土料理のひとつである鯛めしを給食で提供し、地場産物への理解を深めた。	○ 全市で郷土料理の一つである鯛めしを給食で提供し、児童生徒の地場産物への興味関心を高めることができた。 ● 新型コロナウイルス感染症予防措置としての臨時休校等を踏まえ、各校の独自性をいかした食育推進の取組とするため、当事業を令和3(2021)年度から学校教育課主管の学校教育活動推進事業に統合する。	B
9 学校医報酬等 〔学校教育課〕	18,876	17,644	学校医、学校歯科医により全小・中学校全学年及び新年度小学校入学生に内科及び歯科、小学校1、3、5年及び中学校1、3年に眼科の健康診断を実施した。新型コロナウイルス感染症予防のため、耳鼻科検診は1年生全員と奇数学年で症状がある児童生徒等を対象に実施した。学校薬剤師により環境衛生管理を実施した。	○ 市立小・中学校の児童生徒に対して健康診断を実施し、引き続き健康な学校生活を送るための基盤づくりに寄与した。 ● 学校医の確保、医師会・歯科医師会からの要望への対応や、学校現場との連携が重要となる。	A
10 検診費 〔学校教育課〕	8,689	6,918	全小・中学生の定期健康診断（内科・歯科・耳鼻科・眼科・検尿・心電図）と精密検査（小児生活習慣病検診、せき柱側わん症検診、運動器検診精密検査）を実施。教職員の健康診断（一般、歯科）を実施した。	○ 新型コロナウイルス感染症対策を講じて、市立小中学校の児童生徒に対して健康診断を実施し、引き続き健康な学校生活を送るための基盤づくりに寄与した。 ● 児童生徒の健康上の特性に合わせた健診内容等について、検討していく必要がある。	A
11 むし歯予防対策費 〔学校教育課〕	4,612	3,551	学齢期歯科保健事業（歯科健康教室、就学時保護者歯科健康教育、継続的歯科保健事業）の歯科衛生士派遣及び歯科保健教材を活用したむし歯予防、歯肉炎予防などの歯科保健活動を実施した。フッ化物洗口事業を実施した。	○ 平成29(2017)年度から市内全小・中学校にフッ化物洗口事業を開始し、継続実施している。計画通り遂行し、口くう衛生の維持向上に寄与した。全小・中学校で実施し、実施率は97.7%である。 ● 最低でも現在の実施計画（実施方法）で5年間（令和3(2021)年度まで）は継続の上、事業の効果を分析する必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
学校保健推進費 〔学校教育課〕	21,078	13,472	学校での健康診断や健康教育に必要な消耗品を購入した。歯科検診では、新型コロナウイルス感染症予防のため使い捨ての歯鏡を準備して対応した。外部講師を中学校11校に14回派遣し、思春期保健に関する専門的な指導を行った。新型コロナウイルス感染症対策による教職員の負担軽減のため小・中学校に消毒作業員を配置し、延べ4,599回消毒作業を行った。	○ 健康診断や健康教育に必要な器具・教材等を整備し、保健指導等にかかすことができた。新型コロナウイルス感染症予防対策のための物品を用意し、完全に実施できた。健康教育では外部講師への期待も大きく、外部講師による現状を踏まえた専門的指導は、児童生徒及び教職員の健康意識の向上に有効であった。消毒作業員の配置により、新型コロナウイルス感染症予防、教職員の負担軽減につながった。 ● 令和3(2021)年度から健診器具(耳鏡・鼻鏡)の滅菌と保管の外部委託を実施する。使用頻度の高い保健教材は、補充や交換が必要である。また、現場のニーズに合った教材や制度を整備していく必要がある。	A
移動図書館事業 〔図書館〕	2,351	1,711	移動図書館は、図書館車が柏崎小学校を除く市内19小学校をおおよそ1か月に1回程度巡回し、児童に直接貸出しを行った。貸出利用は、2,432人、5,991点であった(昨年度3,770人、8,626点)。 貸出文庫は、コミュニケーションセンターや介護福祉施設、幼稚園・保育園等81(昨年度90)の希望団体に40～50冊程度の図書を出し、施設利用者を利用してももらった。19,059点(昨年度22,220点)の利用があった。	○ 図書館へ来館しなくても多くの図書から主体的に本を選ぶことができるため、読書への興味や読書の幅を広げる機会となり、市民の読書活動の支援を行うことができた。 ● 図書館を利用することが困難な市民が、より充実した読書機会を待たれるよう、事業を継続していく必要がある。	A
図書館サービス事業 〔図書館〕	53,413	52,961	館内資料の貸出し・返却、資料の登録・整理・修理、図書館利用者の利用環境整備、ソフイアだより・ホームページなどを使用した広報及び学校読書支援を行った。また、図書館の利用促進のため「おすすめ本」の紹介や資料の特設展示を行った。 ・貸出者数 92,384人(昨年度17,308人減) ・貸出冊数 288,833点(昨年度50,345点減) ・入館者数 223,655人(昨年度103,547人減) 利用者の調査・相談に適切な資料や情報を提供するサービス(レファレンス業務)は、窓口のほかメールや文書での照会に1,180件(前年度1,309件)対応、回答した。 がんに関する資料と、国立がん研究センターから寄贈された各種パンフレットを設置した「がん情報コーナー」を新設した。 小学校で使用している全教科の教科書を閲覧・貸出しできる「教科書コーナー」を新設した。 図書除菌機2台を導入し、利用者が自由に資料を除菌できるようになった。 柏崎高校の授業の一環である「柏崎サイエンスプロジェクト」活動への支援として、18班57人の生徒にレファレンスを行った。	○ 感染症拡大防止のための休館もあり、入館者数や貸出数は減少したが、資料の清拭作業や図書除菌機の導入により、利用者の感染の不安を和らげることができた。 利用者の関心が高い医療に関する資料コーナーを新設するなどサービスを前進させた。 レファレンス対応やテーマに沿った資料展示により、引き続き市民の生涯学習の支援を行うことができた。 ● 市民が利用しやすく役に立つ図書館であるために、書籍整備など読書環境を充実させるとともに、幅広い世代の市民が気軽に来館し読書、学習、文化活動などができる親しみのある図書館にする必要がある。同時に地域や生活の中で役立つ新たな情報を広く紹介する情報発信の場としての機能を高めたい。 膨大な資料(特に郷土資料)の中から適切な資料を検索・提示するために、継続して目録等の整備及び人材育成の充実を図る必要がある。 読書パリアフリー法の策定を受け、パリアフリーの推進のため電子書籍の購入など障害者・多言語への対応を図る必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	〇＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
学校読書支援員の配置 〔図書館〕	(13,066)	(12,893)	学校読書支援員5名が市内全20小学校を巡回して学校図書館の読書環境整備と読書支援を行った。また、学校に対し支援活動の満足度調査を実施し、これを基に学校との連携を図った。	<p>○ 学校読書支援員を1名増員したことにより、更に図書書の廃棄、書架整理、資料整備、読書指導など、学校図書館の読書環境整備と児童に対する読書支援を行うことができた。特に学習単元に合わせた教育職務支援を増やすことで、児童の学習意欲や読書への興味を向上させることができた。</p> <p>● 大規模小学校の読書支援を充実させるために読書支援員の体制や支援方法を工夫する必要がある。あわせて、中学校図書館の環境整備を図る必要がある。</p>	A
ブックスタート事業 〔図書館〕	(1,229)	(913)	保護者による絵本の読み聞かせを通して乳児の健全やかな成長を促すとともに、家族の触れ合いやきずなを深めることを目的とした絵本配布を実施した。4か月児健診月に案内書類（返信用ハガキ含む。）を郵送し、ハガキを返信した保護者宛てに、希望する絵本2冊を郵送した。令和2年度未現在で、乳児459人に絵本918冊をプレゼントすることができた。	<p>○ ブックスタートでは、「大変良い」（86%）、「絵本を活用している」（98%）の評価を得ることができた。</p> <p>「ブックスタートをきっかけに親子でスキニッブが図れた」、「絵本の読み聞かせを通して子どもの成長を感じることができた」といった保護者の声を聞くことができた。</p> <p>● 乳児期だけでなく、家庭での読書習慣につながるような働きかけを行っていく必要がある。</p> <p>感染症拡大防止の観点から4か月児集団健診会場へ職員とボランティアの観点が不可欠となった。集団健診会場で、以前のようブックスタート本格実施は困難なため、集団健診会場は職員の1名同席を依頼し、簡単な説明と案内書類の配布にとどめ、ソフィアセンターを会場に「ふれあいブックスタート」（読み聞かせとブックスタート絵本の紹介）の実施を検討する。</p> <p>事業の継続と充実のため、引き続きブックスタートボランティアの確保と養成を行う。</p> <p>コロナ禍で外出が難しい状況であるからこそ、乳児と保護者が楽しみながら読み聞かせの時間が持てるよう、働きかけを行う必要がある。</p>	A

(2) 地域ぐるみで子どもや若者を育てる アイウ

地域に誇りと愛着の持てる教育の推進 青少年育成活動の推進と家庭教育の支援 子どもの健全育成支援の推進

《地域の宝・育成戦略》

事務事業名	予算額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
キャリア教育推進事業 〔学校教育課〕	5,059	3,903	お仕事体験塾のホームページ改訂や「柏崎お仕事アイドブック」を作成し、キャリア教育の資料として全小・中学校に提供した。また、キャリア教育講演会やキャリア教育授業モデル校事業を実施した。講演会は、コロナ禍で例年どおりの実施ができな学校が多かったが、37内容、44名の講師が職業や生方について講演を行った。	○ 資料提供により、これまでお仕事体験塾に参加したことがない児童生徒にも柏崎の良さや職業について考えるきっかけの一つとなった。 モデル校事業では、外部講師との連携により取組の充実が図られた。 ● モデル校での学びを他の中学校に共有するための情報交換の機会や教職員研修等、工夫が必要である。キャリア教育講演会は、年度始めに計画を立て、確実な実施・予算執行をする必要がある。	B
就学援助費 〔学校教育課〕	89,620	68,638	経済的理由で就学困難な児童450名、生徒301名の保護者に、小・中学校における必要経費（学用品費、学校給食費等）の一部を援助した。また、令和3(2021)年度に入学予定の経済的理由で就学困難な児童31名及び生徒84名の保護者に、新入学学用品費等を入学前に援助した。	○ 就学困難な児童・生徒の保護者に援助費を支給し、就学環境の向上に寄与した。 ● 小・中学校の在籍児童・生徒数は年々減少しているが、在籍児童・生徒数に占める認定者の割合はほぼ変わりなく、今後も継続して事業を行う必要がある。また、学校と連携しながら、保護者への制度周知を徹底していく必要がある。	A
就学奨励費 〔学校教育課〕	10,229	8,728	特別支援学級に在籍する児童142名・生徒50名、他校の通級指導教室に通う児童48名・生徒8名の保護者に、小・中学校における必要経費（学用品費、学校給食費、交通費等）の一部を援助した。	○ 特別支援学級等に在籍する児童・生徒の保護者に援助費を支給し、就学環境の向上に寄与した。 ● 小・中学校の在籍児童数は年々減少しているが、特別支援学級在籍者数は前年度より増加している。今後とも特別支援学級等に在籍する児童・生徒を持つ保護者の経済的負担を軽減し、就学環境を保障する必要がある。	S
通級指導教室事業 〔学校教育課〕	503	367	指導に必要な教材や教材研究のための書籍購入等の支援、通級指導教室の環境整備を行った。通級指導担当者主催の研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部中止となり、1回のみ実施した。	○ 担当者の指導力向上、教室環境の整備につながり、多様な教育的ニーズのある児童生徒が専門的な指導・支援を受けることができ、在籍校での適応力が向上した。 ● 通級指導教室を利用する児童生徒の増加や教育的ニーズの多様化が顕著に見られる。通級指導教室の新設も含め、教室環境の整備や指導のために必要な情報端末等の更新、指導者の育成等が必要である。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
21 特別支援学級介助事業 〔学校教育課〕	84,182	82,508	小学校13校に、前年度より3名多い33名の特別支援学級介助員を配置し、特別支援学級に在籍する児童が安心できる環境で充実した学校生活を送れるよう支援した。	○ 特別支援学級に在籍する児童の個に応じた支援ができたことにより、安定した学校生活を送ることができた。 ● 介助員の配置については、特別支援学級在籍児童数の増減と個々の特性を考慮しながら検討していく必要がある。	S
22 特別支援教育推進事業 〔学校教育課〕	2,584	2,282	特別支援教育会議では、幼児部会・小中部会合わせ、214件の審議を行った。スクールサポート巡回相談について、後期は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となり、前期のみ実施した。	○ 専門員による丁寧な調査活動により、保護者の理解を得られ、概ね適正な就学につながる判断を出すことができた。 ● 専門員への依頼件数が増加している。また、複雑な要因のあるケースへの対応などが増えている。特別支援学級の増加により、特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターへの支援も必須である。資質向上のための研修の充実も求められている。	A
23 中学校心の教室相談員事業 〔学校教育課〕	1,484	1,358	中学校区に派遣している県派遣カウンセラーの業務量が多い中学校6校に対し3名の「心の教室相談員」を配置した。 相談員の配置校を変えたため、生徒との教育相談等は25件、生徒との関わりは1,364件であった。日常生活の何気ない関わりから、不安や悩みを抱える生徒に対し丁寧な対応を行った。	○ 学校の実態に応じたよりきめ細かな相談支援業務を実施することができ、生徒の悩みの解消や自己肯定感の向上につながった。 ● 対応が多岐にわたるため、今後も相談員の確保が必要である。	A
24 かしわざき子ども大学事業 〔学校教育課〕	4,306	3,148	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、自然体験コース・ドリウムコースは中止となり、キャリア教育コースや子ども笑顔創造プロジェクトなど全4コースを実施した（参加人数（地域住民も含む。）8,336名） なお、キャリア教育コース、学校教育活動推進事業は別科目から支出されている。	○ 感染症対策を講じながら、地域団体や大学等と連携し学校や家庭だけでは体験できない様々な活動の場を提供し、子どもたちの生き生きする力を育むことができた。 ● 財源であるかしわざき子ども育成基金の残高が、減少している。子ども大学の在り方や同様な事業との統合等を検討し、スリムな事業展開を図る必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
小学校社会科副読本改訂編集事業 【新規】 [学校教育課]	1,519	1,358	4年ごとに内容の見直し、データ入替えなどの改訂を行っている。今回は、新学習指導と教科書の改訂に伴い、全面改訂を行った。 なお、市役所新庁舎移転に伴い、庁舎写真掲載の都合上、通常の改訂サイクルから1年先延ばししての発行とした。	○ 新学習指導要領の内容に即した教科書を基に社会科副読本「わたしたちの柏崎」を改訂・発行することができた。Webミュージアムで、7月1日から一般公開する。 ● 充実した内容に編集するため、全面改訂には作業に2年間かける必要がある。	A
修学旅行のキャンセル料等支援事業 【新規】 [学校教育課]	8,740	8,706	新型コロナウイルス感染症拡大防止のために修学旅行を中止又は延期、変更した全中学校(11校)に対して、キャンセル料等を補助した。	○ 中学校に補助金としてキャンセル料等に係る経費を交付したことにより、保護者の経済的な負担軽減につながった。 ● 今後も社会情勢を注視し、必要な支援を行うことを検討する。	A
学校支援地域本部事業 [文化・生涯学習課]	5,689	3,082	全小・中学校に地域コーディネーター(38名)を配置し、学校の求めに応じて、地域の人材をいかした住民が学校を支援する活動に取り組むことで、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみでの子どもの育成につなげる。 地域コーディネーター・学校担当者に対象とした「地域と学校の連携・協働の在り方について」研修会を開催し、地域コーディネーター13人、協働活動支援員5人、学校担当者29人の計47名が受講した。	○ 研修会の受講とグループ討議により課題を整理して、地域の人材をいかした住民が学校を支援する活動に取り組むことで、学校、家庭、地域が一体となって地域ぐるみでの子どもの育成につながることができた。 ● 学校のニーズや地域の人材を効果的に結び付けながら、地域ぐるみで継続して教育活動を支援していく必要がある。	A
青少年健全育成事業 [青少年育成センター]	4,594	4,161	青少年育成委員65人が、柏崎駅や市内中心部での街頭育成活動(年間23回、延べ参加者140人：前年度31回、延べ参加者数415人)、各中学校区での地区育成活動(年間10回、延べ参加者116人：前年度32回、延べ参加者数441人)等を行った。予算の削減や新型コロナウイルス感染症の影響で、計画の変更を余儀なくされ関係機関との連携も難しく、中高生と大人の座談会やPTA街頭育成活動、えんま市育成活動、各種の啓発活動などを行うことができなかった。	○ 青少年育成委員単独の活動になってしまったが、街頭育成活動、地区育成活動で挨拶や声掛けを行い、青少年の非行・被害の防止、安心・安全の見守りに貢献することができた。 ● 令和2(2020)年度末をもって、青少年育成センター及び青少年育成委員が廃止されたが、全ての子供・若者が健やかに成長し、自立・活躍できる社会を目指して、家庭を中心として、学校・地域・関係機関が各々の役割を果たし協力・連携していく必要がある。	B

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
子どもフェスタ運営事業 〔文化・生涯学習課〕	116	16	柏崎市子ども会連合会と協働し、子どもの心身の健康を増進し情報を豊かにすることを旨としてトライオウパーク&子どもフェスタを開催した。なお、開催を予定した子どもフェスタポーツフェスタ及び冬の子どもフェスタについては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止した。 ・トライオウパーク&子どもフェスタ参加者171人 ・前々年度192人、前年度は台風接近のため中止	○ 新型コロナウイルス感染症の影響下ではあったが多数の参加があり、体験活動や参加者相互の交流を通して、青少年の健全育成に寄与することができた。 ● 新型コロナウイルス感染症に対応した事業実施を目的し、内容の改善や更新に取り組む。子ども会活動の活性化のために本事業を活用してもらえよう、地域の子ども会との連携を深める。	B
なぎさ体験塾運営事業 〔文化・生涯学習課〕	225	0	東村山市・東久留米市・柏崎市の共催でシーユース雷音を拠点に、2泊3日の小学5・6年生による交流体験を実施する予定であったが、全国的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。	○ - ● 新型コロナウイルス感染症対策を考慮した運営とメニューを設定する必要がある。	-
地域で育む子ども育成事業 〔文化・生涯学習課〕	773	274	各PTA団体が主体となつて行う子ども育成事業を柏崎市小中学校PTA連合会(市P連)と協力して事業展開したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止や学校休業期間の影響があり、当初計画の提出数も少なく、また、事業計画をしたものの新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した事業もあった。 ・市P連事業 0事業 (前年度 3事業) ・各PTA団体事業 12事業 (前年度 24事業)	○ 実施できた事業数は少ないものの、各種研修会等の事業を開催することにより、市P連、地区PTA会員の知識を深めるとともに、子ども達の育成にもつながった。 ● 子ども達を取り巻く環境は、日々変化していくため、PTAの知識向上のため、今後も各種研修会等を行っていく必要がある。	B
ジュニアリーダー養成事業 〔文化・生涯学習課〕	(200)	(67)	柏崎市子ども会連合会との協働により、柏崎市内の小・中学生を対象に、子ども会などでリーダーとして活躍できる知識や技能を身に付けることを目的とした研修を実施した。 ジュニアリーダー養成研修参加者 28人 (前年度28人) 研修実施回数 7回 (前年度17回) ※全12回の研修を予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響で5回を中止した。	○ 年齢や学区の異なる児童・生徒が研修に参加し、互いに協力して活動することを通して、社会性や協調性を育むことができた。また、子どもが自ら考え、主体的に活動することを念頭に研修を進め、リーダーとしての資質を養うことにつながった。 ● 少子化で子ども会活動が減退する中、本来の目的である子ども会活動の場で活躍する機会が限られてきている。子ども会活動に限らず、地域の青少年の中心として、広く地域活動に取り組み、活躍できる人材の育成を目指して事業を進める。	A

(3) 教育環境を充実させる
 アイ 良好な教育環境の整備
 教育現場の情報化の推進

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
環境衛生検査費 〔学校教育課〕	1,480	1,476	学校薬剤師による学校環境衛生定期検査及び学校給食衛生管理定期検査を実施した。プール授業が中止となったが、プール設備検査は実施した。	○ 市立小・中学校の環境衛生検査を実施し、健全な教育環境が保たれた。 ● 健全な環境を維持するために検査を継続する必要がある。	A
奨学金貸付事業 〔教育総務課〕	52,320	45,660	経済的な理由により大学・短期大学・専修学校（専門課程）への就学が困難な学生に学資の貸付けを行った。 ・令和2(2020)年度貸付者総数67人（令和2(2020)年度新規貸付者11人）のうち、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う追加募集者1人	○ 新規貸付者11人を含む67人に貸付けをし、教育の機会均等の向上が図られた。また、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う貸与者の追加募集を行い、1人の奨学生に貸付けを行った。 支援が必要な学生に幅広く対応するために、他の奨学金制度との併給を可能にし、大学等在学生の申請を認めるなど次年度に向けた制度改正を行った。 ● 制度改正による申請人数の増減や奨学生の実態等を把握し、今後更に学生が利用しやすい奨学金貸付事業にしていく。	A
学校管理運営費 〔教育総務課〕	12,238	12,238	小・中学校を維持・管理する経費の予算の中から、新型コロナウイルス感染症対策として、国の補助金を活用し、衛生管理用品の他にアクリルパーテーションを購入した。 ・アルコール等の衛生用品（7,385千円） ・アクリルパーテーション（4,853千円） 小学校500枚＋中学校563枚（合計1,063枚）	○ 小・中学校の新型コロナウイルス感染症の感染拡大対策に寄与した。 ● 今後も国の補助金等を活用して、児童生徒の安全を確保する。	A
学校再開に伴う感染症対策・学習補償等に係る支援事業 〔教育総務課〕	28,490	28,490	新型コロナウイルス感染症対策として、国の補助金を活用し、電子黒板一式を購入した。 ・電子黒板一式（28,490千円） 小学校46台＋中学校22台（合計68台）	○ 小・中学校の新型コロナウイルス感染症の感染拡大対策に寄与した。 ● 今後も国の補助金等を活用して、児童生徒の安全を確保する。	A

33

34

35

36

事業事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
学校用務員委託事業 〔教育総務課〕	115,330	115,329	小・中学校用務員業務を民間委託し、全ての学校に用務員を配置している。また、平成30(2018)年8月1日から令和3(2021)年7月31日までの3年間の長期継続契約の3年目として、安定的な小・中学校の管理業務の維持・運営を図った。	○ 学校用務員業務を適正かつ確実に、学校教育環境の維持が図られた。また、市内小・中学校の大規模な作業や特殊な作業等を複数の用務員で行う、グループ作業を1回実施し、業務の効率化及び用務員の技術、技能の向上を図った。 ● 学校、受託者と連携しながら、用務員の資質の維持・向上を図り、学校教育環境の適切な管理を行っていく。	A
通学支援事業 〔教育総務課〕	118,428	101,854	遠距離通学の児童生徒に対して、通学支援(スクールバスの運行や通学定期券の支給)を実施した。登下校のほか、校外学習等の移動手段として利用した。 【通学距離基準】 ・児童：片道 2.5km ・生徒：片道 夏期4.5km、冬期3.5km 【通学支援を受けた人数】 ・令和2年度(2020年度) 559人 ・令和元年度(2019年度) 570人	○ 遠距離通学の児童生徒に対して負担軽減が図られた。高柳中学校統合に伴い、スクールバスを第五中学校へ配備し、旧高柳中学校の生徒の第五中学校までの通学支援を行った。また、新型コロナウイルス感染症防止策として、スクールバスの密状態を回避するため、市内小中学校でスクールバスの増便及び運行ルート見直しによる乗車人数の平準化を行った。 ● 児童生徒の安全な通学支援を行うために車両を良好な状態に管理し、老朽化した車両を計画的に更新する。また、高柳地域内交通の再編に伴い、高柳地区児童生徒の通学支援について見直す必要がある。	A
学校施設長寿命化事業 〔教育総務課〕	146,433 繰越繰越 295,769	31,832 繰越繰越 268,811	半田小学校の普通教室棟の改修及び空調設置の大規模改修工事(Ⅱ期)を実施し、また、榎原小学校の大規模改修工事の実施設計を行った。加えて、今後、老朽化した施設を計画的に長寿命化改修していくため、学校施設等長寿命化計画(個別施設計画)策定に係る現地調査等の策定業務委託を実施し、学校施設等長寿命化計画(個別施設計画)を策定した。	○ 老朽化部分の大規模改修工事及び施設の長寿命化工事に伴い、利便性及び快適性が向上し、良好な教育環境の整備ができた。 ● 児童生徒の安全・安心、また、災害時の地域住民の避難所・避難場所としての機能を果たす学校施設とするため、「学校施設等長寿命化計画(個別施設計画)」に基づいた計画的な改修を進めていく必要がある。	A
小学校施設整備事業 〔教育総務課〕	36,213 繰越明許 57,200	35,346 繰越明許 45,793	柏崎小学校の老朽化により劣化した体育館西面の外壁改修工事を実施するとともに、荒浜小学校の教育環境の向上を図るためトイレ棟増築工事を実施した。鯖石小学校では、中鯖石保育園移転に伴う改修工事と普通教室等への空調設備設置工事を実施した。また、内郷小学校の体育館トイレ改修工事を実施した。	○ 老朽化部分の改修、トイレ改修及び空調設備設置により、児童の安全・安心で、かつ、良好な教育環境の整備ができた。 ● 老朽化により、早急な改修を要する施設が増加していることから、児童の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備を継続して進めていく必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
41 小学校グラウンド補修事業 〔教育総務課〕	35,022	35,021	北鯖石小学校の経年により劣化した屋外グラウンドの改修工事を実施した。	○ 経年劣化部分の改修工事により、安全・安心な屋外教育環境の整備ができた。 ● 経年劣化により、早急な改修を要する施設が増加していることから、生徒の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備を継続して進めていく必要がある。	A
42 日吉小学校体育館等改築事業 〔教育総務課〕	91,306	73,674	平成30(2018)年度からの継続工事として、旧屋内体育館・食堂棟の解体工事と、旧体育館跡地整備の設計を実施した。	○ 旧屋内体育館・食堂棟の解体工事を完了するとともに、その跡地に駐車場等を整備するための工事設計測量業務を実施したことにより、児童の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備及び外構整備のための準備を進めることができた。 ● 旧屋内体育館・食堂棟の跡地に駐車場等を整備し、学校敷地内通路の外構整備を行い事業を完了させる。	A
43 中学校施設整備事業 〔教育総務課〕	11,830 繰越明許 17,000	11,829 繰越明許 14,746	老朽化した第一中学校体育館南面外壁の改修工事を実施した。また、衛生環境の確保と避難所利用を考慮したトイレの洋式化を進めるため西山中学校の体育館トイレ改修工事を実施した。	○ 老朽化した施設の改修を実施したことにより、生徒の安全を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備ができた。 ● 老朽化により、早急な改修を要する施設が増加していることから、生徒の安全・安心を確保し、良好かつ快適な教育環境の整備を継続して進めていく必要がある。	A
44 東中学校改築事業 〔教育総務課〕	967,572 繰越明許 7,117	156,649 繰越明許 7,000	東中学校改築検討委員会から示された東中学校改築事業基本構想及び基本設計を踏まえて、実施設計を行った。また、令和3(2021)年度からの改築工事に当たり、駐輪場の移設が必要となり、学校運営への支障を最小限にするため、仮設駐輪場設置工事を行った。	○ 築後40年以上が経過し、老朽化により劣化した校舎と屋内体育館の改築事業を進め、安全・安心で、かつ、快適で高質の教育環境整備を図るとともに、適正規模の学校施設となるよう計画的に改築の準備を進めることができた。 ● 実施設計に基づき、令和4(2022)年度の竣工に向けて改築工事を進めるとともに、令和5(2023)年度に行う予定の既存校舎・体育館解体工事の設計等を計画的に行っていく必要がある。	A
45 給食施設整備事業 〔教育総務課〕	43,289	43,288	西部地区共同調理場調理室のドライ化改修工事を行い、学校給食衛生管理基準に合った施設管理を行った。東部調理場洗浄室へ空調設備を整備し、施設内の室温管理が適正に行われた。	○ 衛生管理基準に沿った整備が行われ、施設環境が改善された。 ● その他の調理場の老朽化も進んでいるため、計画的に改修工事を進め、ドライ化を図る必要がある。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
46 給食施設管理経費 〔教育総務課〕	36,350	31,552	市内8か所の学校給食調理場に対して衛生管理基準に沿った施設管理及び環境整備を行った。	○ 学校給食の衛生管理基準に沿った施設管理ができた。 ● 現行の衛生基準に則した施設整備を行うために、20年以上経過した施設の統廃合及び受配校の見直しを計画とおおりに進める。	A
47 情報機器管理経費 〔教育総務課〕	178,084	178,083	包括アウトソーシング（平成30(2018)年4月1日～令和5(2023)年3月31日）を外部委託し、教務室、教室等の情報環境の整備及び情報機器の保守管理を効率的に実施した。	○ 教育ICT(※)の促進及び校務の効率化が図られるとともに、安定した情報教育環境を継続して確保することができた。また、G I G A スタックの推進に伴い、パソコン教室に設置してあるP Cの更新時期の見直しを行うとともに、I C T 支援室を設置する準備をした。 ● 情報教育の更なる促進のため、必要な情報機器の検討を行う必要がある。	A
48 G I G A スタック整備事業【新規】 〔教育総務課〕	277,994	276,760	国のG I G A スタック構想（1人1台端末の整備）の早期実現及び新型コロナウイルス感染症等の緊急時における学習環境を提供するため、タブレットやモバイルデータの整備を行った。 ・タブレット 小学校 児童用 2,544台 教職員用 302台 中学校 生徒用 1,751台 教職員用 169台 ・モバイルルーター 280台	○ 小学校3年生から中学校3年生までの児童生徒及び教職員にi P a dを配付した。また、通信環境が整っていない家庭に対し、モバイルルーター（通信機器）の貸出しを行った。 ● 今後も、児童生徒に最適な学習機器及び学習環境を提供する必要がある。また、i P a d等の更新時の財源を確保する必要がある。	A
49 G I G A スタック整備事業【新規】 〔教育総務課〕 令和元年度補正予算（繰越分）	177,985	118,690	国のG I G A スタック構想（1人1台端末の整備）に伴い、小・中学校のネットワーク環境（A Pの増設）及び端末を保管する電源キャビネットの整備を行った。 ・アクセポイント 中学校 148か所 小学校 179か所 ・電源用キャビネット 小学校 169台 中学校 70台	○ 小・中学校の通信環境の向上に寄与した。また、児童生徒の学習用端末を保管する電源キャビネットを整備することができた。 ● 児童生徒の学習に支障を来さないよう、安定した通信環境を提供する必要がある。	A
50 給食業務運営経費 〔教育総務課〕	326,989	318,803	小学校20校、中学校11校及びびはまなす特別支援学校へ、学校給食を提供するための維持管理運営に必要な業務を専門の業者に委託することにより、安全で円滑な運営を図れた。 また、新型コロナウイルス感染症による小中学校の臨時休業に対し、学校給食共同調理上会計への補填、納入業者への違約金を支出した。	○ 児童・生徒に安全安心な給食の提供ができた。 ● 更に効率の良い給食提供を行うために、調理場統廃合及び受配校の見直しを行い、経費削減を図る。	A

2 学びを通じて地域の「たくましさ」をはぐくむ

【第五次総合計画・前期基本計画における施策の方針】

- ① 誰もが生涯にわたり、生きがいを持ちながら主体的に学び続けられる環境をつくる。
- ② いつでも、どこでも学べる機会を創出するとともに、様々な機関・施設・団体と連携しながら、多様な生涯学習ニーズに対応する学習内容を提供する。
- ③ 図書館、博物館など、生涯学習に活用される社会教育環境の充実に取り組み。
- ④ 学びの成果を地域社会における様々な地域活動、教育活動にいかせるよう、多様な主体と連携した生涯学習を推進する。

◆ 主な事業

文化・生涯学習課

○ 新成人フェスティバル事業

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、やむを得ず式典の開催を中止したが、代替事業として、お祝いメッセージ動画を配信し、お祝いメッセージ動画を制作し、お祝いメッセージ動画を配信することにより、市民から応募があった。市民を挙げて新成人を祝福する動画を配信することができ、1.2万回以上の視聴があった。

記念品贈呈事業については、郷土を意識してもらえ、門出米と地元企業製造の菓子等新成人に贈った。新成人からは、郷土への愛着や誇りを実感することができたとの感想が寄せられた。

新型コロナウイルス禍の困難な状況下ではあるが、市民を挙げて新成人を祝福するとともに、新成人から郷土への愛着や誇りを感じてもらったことにつながった。

○ 公民館講座運営事業

世代のニーズに合わせた講座設定により、シニアコース・エイジレスコース・子どもコースの76講座に1,464人が受講し、前年度比約8%減となった。子ども向け講座ではオンライン講座を開催するなど、コロナ禍での実施となったが、感染拡大予防対策を十分に講じた上で開催し、生きがいや学ぶ楽しさを見いだす学習機会の提供ができた。

○ 市民大学運営事業

地元大学や地域の人材と連携し、幅広い分野で専門性の高い生涯学習講座を開催した。全11講座を実施し、延べ777人が受講した。本市の地域振興、高齢者福祉をテーマとしたことにより、市民が地域の実情や課題を知り、地域づくりへの関心を高めることにつながった。また、自身の知識や経験を基に市民自らが講師を務める講座も開催し、学習活動の活性化に資することができた。

図書館

○ 郷土資料の保存と活用

真貝新一氏撮影写真12,000点のデジタル化を行い、資料活用の利便性が向上した。

また、「真貝新一写真展」を展示ホールで開催し、412名の入場があった。また、インターネット上にも展示会場を設け、589回（重複除く。）のアクセスがあるなど、郷土資料を活用することができた。

○ イベント・講座開催

幼児向けおはなし会、大人向け絵本講座、上映会等を行うことにより、幅広い年代の市民が図書館を利用する機会を設けることができた。また、読書ボランティアと協働した出張おはなし会を実施し、地域での読書活動推進を図ることができた。

○ 子ども読書活動推進計画の取組

感染拡大防止のため、絵本子どもフェスタ・絵本セミナー・読み聞かせボランティア研修会を延期又は中止した。絵本ライブセミナー・子ども司書養成講座については、感染対策を行った上で実施するなど、可能な範囲で読書活動を推進することができた。

博物館

○ 博物館振興事業

他機関等と連携を図りながら、市民共有の財産である収蔵資料等を活用した当市固有の地域遺産や文化を発信する企画展等を行い、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与することができた。また、学習指導要領に沿った取組では、「むかしのくらしと道具」展を毎年テーマを変えながら開催し、令和2(2020)年度は、小学校3年生の総合学習の場等として11校の利用があり（出前講座を含む。）、多くの児童が学習の機会を得ることができ有効であった。なお、感染症対策として、展示解説では少人数にグループ化し巡回型で行う等の取組を行い、学校の授業時間に支障なく実施することができた。

○ プラネタリウム管理運営費

年度を通じて収容制限等を行い、安心して利用できる環境を提供した。定期投影等では子どもから大人まで楽しめる番組を選定し、また、学習投影での内容の充実を図るなどを行い、天体学習の興味や理解を深めてもらうことができた。また、令和元(2019)年度に新たに企画したイベント投影の「熟睡プラネタリウム」と「クリスマスイベント」は、いずれも追加投影となり好評を得ている。なお、感染症対策による臨時休館機会による臨時休館機会に、在宅でも楽しめるコンテンツとして制作したオリジナル動画を「ウチそら」として公開し、オンラインでの新たな視聴機会を提供することができた。

(1) 学びの機会を充実させる
多様な学習・交流機会の提供《健康・元氣・いきいき戦略》
アイ 社会教育環境の充実

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
マナビイステージ開催事業 〔文化・生涯学習課〕	450	0	8月に柏崎公民館(市民プラザ)等で生涯学習活動 を行っており、前年度のマナビイステージに参加し た団体で実行委員会を組織し、マナビイステージの 実施向け、事業内容の縮小や、無観客、作品展示の みでの開催等で検討をしたが、新型コロナウイルス 感染症拡大防止の影響により、練習や作品作成の時 間が短くなっている団体や活動できない団体がある ことから、やむなく中止とした。	○ ● 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の検討及び 運営の工夫が必要	—
新成人フェスティバル事業 〔文化・生涯学習課〕	2,666	2,214	新成人を祝福するとともに、成人としての自覚と社 会参加を促すことを目的として、成人式の開催を予 定したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に 伴い、やむを得ず式典の開催を中止した。なお、代 替事業として、お祝いメッセージ動画の配信及び記 念品の贈呈を行った。 ・ 動画配信事業 投稿動画件数 64団体・個人 動画視聴回数 1.2万回以上 ・ 記念品贈呈事業 贈呈件数 709件 門出米と地元企業製造の菓子を贈呈	○ 代替事業を通じて、困難な状況の中ではあるが、市 民を挙げて新成人を祝福することができた。また、 新成人から郷土への愛着や誇りを意識してもらうこ とにつながった。 ● 新型コロナウイルス感染症に対応した開催方法の検 討及び運営の工夫に取り組む。	A
公民館講座運営事業 〔文化・生涯学習課〕 (シニアカレッジ講座運営事業を工 イジリス講座運営事業・子ども向け 講座運営事業と統合したもの)	2,662	1,593	社会経験豊富なシニア世代が興味を持って取り組め る多種多様なメニューのシニアコース、全年齢を対 象とした幅広いジャンルのエイジレスコース、長期 休みに合わせた創作活動や実験を行う子ども向け コースを設け、講座を開催した。 【シニアコース】 ・ 令和2(2020)年度 講座 …開催 31講座 延べ人数 …628人 ・ 令和元(2019)年度 講座 …開催 41講座 延べ人数 …818人 【エイジレスコース】 ・ 令和2(2020)年度 講座 …開催 30講座、中止 10講座 延べ人数 …683人 託児サービス…3人 ・ 令和元(2019)年度 講座 …開催 36講座、中止 4講座 延べ人数 …1,026人 託児サービス…0人 【子ども向けコース】 ・ 令和2(2020)年度 講座 …開催 15講座 延べ人数 …親子24組 153人 託児サービス…1人 ・ 令和元(2019)年度 講座 …開催 16講座 延べ人数 …親子73組 217人 託児サービス…2人	○ 各年代のニーズに合わせ、交流を通じて生きがいや 字ぶ楽しさを見いだす学習機会を提供することがで きた。また、子ども向けコースのオンライン講座 や、講座1回当たりの定員を減らし、2～3回に分け て開催するなど新型コロナウイルス感染症拡大防止対 策を講じた上で実施することができた。 ● より多くの方々に学習機会を提供するため、引き続 き講座内容、周知方法等を工夫し、魅力ある講座に していく必要がある。また、エイジレスコースでは 若年層と男性の受講率を増加させるために、SNS を通じた効果的な情報発信や新たな講座内容の企画 などを検討していくことが必要である。	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
社会教育委員会協議運営事業 〔文化・生涯学習課〕	563	339	生涯学習推進の審議に係る社会教育委員会を開催した。 ・委員数 16人(定員17人) ・会議の開催回数 3回 ・第三次生涯学習推進計画の進行管理 ・研修会、研究大会参加	○第三次生涯学習推進計画の進行管理に対する意見等は、事業担当部署と共有し、審議の都度、検証を行った。 また、長岡市で開催された第62回全国社会教育研究大会に参加し、県内他市の取組状況について情報収集を行うことができた。 ●第三次生涯学習推進計画の実行性を高めるには、定期的に、継続的に本会議で進行管理の審議を行うことが必要である。 また、各種研修会に参加し、他市の取組状況など情報を収集する必要がある。	A
郷土資料整備事業 郷土資料の保存と活用 〔図書館〕	(100)	(70)	真貝新一氏が撮影した戦前～昭和中期の柏崎の写真約12,000点のデジタル化を行い、目録との対照を可能にした。 「真貝新一写真展」を3月31日から展示ホールで開催し、412人の入場があった。また、インターネットからも同展の写真を閲覧できるようWEBページを作成・公開し、589回(重複除く。)のアクセスがあった。	○利用の多い真貝新一氏撮影写真の全点をデジタルデータ化し、利便性を向上させた。また、真貝新一写真展のWEB展示を行うことで、郷土資料の活用と感染対策を両立させた。 ●劣化の進んだ資料の保存管理対策が必要である。また、郷土資料を活用しやすくするため、資料現物と目録の照合を容易にするなどの整備や、保存場所の集約など、資料管理の効率化を図る必要がある。	A
イベント・講座開催 〔図書館〕	2,238	1,366	読書推進のためのイベント・講座等を実施した。 【土曜日絵本の時間】8回 参加者延べ74人(前年度11回 参加者延べ131人) 【映画上映会】54回 入場者493人(前年度127回 入場者2,773人) 【図書館読書ボランティア(登録者21名)と職員による幼稚園・保育園等への出張おはなし会】3回(前年度19回) 参加者延べ79人(前年度613人)※ジャングルギョッキのみ実施あり。幼稚園・保育園等は派遣依頼無し。	○感染症拡大防止のため、前年度実施したイベント等を中止又は規模を縮小しての開催となったものの、幅広い年代を対象にしたイベントや講座を実施することにより、市民の読書活動推進に寄与することができた。 また、絵本の読み聞かせなどを、当館内又は幼稚園・保育所へ出向いて実施することにより、ボランティアの育成支援を図り、地域での読書活動や生涯学習の推進を図ることができた。 ●引き続き関係機関と連携しながらイベント・講座を開催していく。開館25周年の記念事業を、予算のない中で最大の効果が得られるよう取り組む。	A
子ども読書活動推進計画の取組 〔図書館〕	(530)	(218)	第二次柏崎市子ども読書活動推進計画に沿って、関係課と連携を図りながら施策に取り組み、その進捗状況を図書館協議会に報告した。 ①絵本子どもフェスタ ・人形劇「オズの魔法使い」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年度へ延期。(前年度ミュージカル上演200人参加) ・聞かせや、けいたろうさん絵本ライブ&セミナー97人参加(前年度絵本作家ワークショップ53人参加) ②子ども司書養成講座(前年度榎原小11人受講) 二田小の11人が受講 ③読み聞かせボランティア等の育成・研修 ※開催を予定していたが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。 ・はじめての絵本セミナー 中止(前年度86人) ・絵本の読み聞かせボランティア交流研修会 中止(前年度25人)	○感染症拡大防止を図りながら、幼稚園・保育園及び小学校、読書と子育ての関係機関・団体との連携により、子ども読書の読書習慣づくりと読書環境の整備を推進することができた。 ●感染症拡大防止のため、当初予定した多くの読書推進事業が中止となった。コロナ禍においてどのような読書推進していくか工夫する必要がある。また、子ども読書活動推進計画の取組を充実させるため、引き続き中学校・高等学校の読書環境を認識する中で、今後の方向性を考えていきたい。	B

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
博物館振興事業 〔博物館〕	1,959	1,277	<p>【新型コロナウイルス感染症の影響と取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/18～5/11は臨時休館とした。 ・企画展等は、春季・夏季・秋季・冬季を計画していたが、夏季企画展は次年度へ延期とした。 ・関連催事として、春季企画展ではワークショップ、秋季企画展では講演会・見学会を会期中に予定していたが、中止とした。 ・春季企画展は、展示替えをした上で会期を延長して実施した。 ・冬季収蔵資料展における学校への解説や体験では、少人数グループ編成や使い捨て手袋の着用等、工夫して実施した。 <p>【実績等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春季企画展「みんなな元素でできているー元素と周期表の世界ー」 5/12～8/23 (入場者8,438人) ・第27回動物植物スケッチ・写真展 6/14～6/28 (入場者1,489人) ※エントランスホールで開催 ・秋季企画展「かしわざきの木喰さんーふるさとの微笑み ふたたびー」 10/10～11/23 (入場者9,165人) ・冬季収蔵資料展「むかしのくらしと道具ー子ども時代を支えたモノたちー」 12/12～翌3/14 (入場者5,527人) ※ワークショップ「藁のニイゴ(芯)で手ぼうき作り」2/6 (14人参加) ※出張展示「ちよつと昔の道具展」 1/30～2/14 於西山ふるさと館 (観覧者数913人) ・その他、エントランスホールにて各種のミニ展示を実施 <p>延べ開催日数 203日間 延べ入場者数 23,130人 (第27回動物植物スケッチ・写真展を除く) ※令和元(2019)年度 延べ開催日数 198日間 延べ入場者数 24,950人</p>	<p>○ 企画展等では、当館収蔵資料の活用に加え、他機関等の協力を得ながら連携し、多様な学習機会の提供や理解を深める取組とすることができた。</p> <p>○ なお、冬季収蔵資料展「むかしのくらしと道具」では、ワークショップの他にも柏崎刈羽地域における小学校3年生の総合学習の場として10校（他に出前講座1校）の利用があり、学校教育活動に寄与することができた。</p> <p>● 市民の教育、学術等に寄与する教育施設とするため、博物館資料を適切に収集、保管し、市民ニーズ等に対応した展示や解説等の学習機会を提供していくことが必要である。</p> <p>● また、コロナ禍でも入場者が安心して利用できるよう感染症対策を行いながら、継続していくことが必要である。</p>	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	〇＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
プラネタリウム管理運営費 〔博物館〕	5,550	5,434	<p>【新型コロナウィルス感染症の影響と取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～5月は投影を休止とした。 ・ゴールデンウィーク特別投影・キッズプラネタリウムを中止とした。 ・6月6日から再開したが、各回の収容人数を制限するなどの対策を行った。 ・休止期間中、在宅でも楽しめるコンテンツとしてプラネタリウム動画「ウチそら」を公開した。動画は再開後も配信し、計6本を公開した。 <p>【実績等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期投影では、星空解説と「1秒ちよつと前の月」(～10月)、「宇宙への旅」(11月～)・「迷宮のプラネタリウム」(通年)、「クレヨンしんちゃんー星空と学校の七不思議だゾ！」(通年)を投影した。 ・夏の特別投影(42回 758人)の他、イベント投影として「熟睡プラネタリウム」(5回 194人)、「クリスマスマスイベント」(6回 161人)等、時季に合わせたイベントを開催した。 ・小・中学校の学習投影にも対応した。 <p>定期投影 118回 特別投影 88回 (団体利用含む。) 学習投影 63回 計269回 入場者 5,357人 ※令和元(2019)年度 338回 8,215人</p>	<p>〇 定期投影等では子どもから大人まで楽しめる番組を選定し、天文への興味や理解を深めてもらうことができた。</p> <p>また、オリジナル企画であるイベント投影では、「熟睡プラネタリウム」や「クリスマスマスイベント」を引き続き実施したが、追加投影を行った回数もあるなど、多くの来場者を得ることができた。</p> <p>さらに、学習投影では、小学校(16校)、中学校(2校)が理科の天文学習で利用し、学校教育活動に寄与することができた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で全体の投影回数や入場者数は前年度を大幅に下回ったが、入場者が安心して利用できる対策や動画配信も含めた各種の取組により、柏崎の星空を解説し、家庭等でも星空を楽しめる機会を提供することができた。</p> <p>● 学習投影や柏崎の今夜の星空解説等を通じた天文学習を継続するとともに、新番組を組み込みながら、今後もリニューアルで導入した新型機器を有効に活用する企画を行う必要がある。</p> <p>また、コロナ禍でも入場者が安心して利用できるよう感染症対策を行いながら、継続していくことが必要である。</p>	A

(2) 家庭・地域の教育力を高め、共助社会を形成する アイ 地域づくりへの学習成果の活用 イ 様々な主体との連携による生涯学習の充実

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	〇＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
市民大学運営事業 〔文化・生涯学習課〕	1,069	493	<p>学習者の自己実現や豊かな人生の創造を支援し、その学習成果が地域づくりに活用されることで、ひいては地域社会の活力につながることを目的として、市民大学講座を開催した。地元大学をはじめとした高等教育機関や地域の人材との連携により、幅広い分野をテーマにさまざまな知識を習得する機会を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講座数 11講座 (前年度16講座) ・延べ受講者数 777人 (前年度950人) <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、前期講座(6月～8月)の開催を中止した。</p>	<p>〇 本市の地域振興、高齢者福祉をテーマとしたことにより、市民が地域の実情や課題を知り、地域づくりへの関心を高めることにつながった。また、自身の知識や経験をもとに市民自らが講師を務める講座も開催し、学習活動の活性化に資することができた。</p> <p>● 人口減少が進み地域の活力が減退する中、学習成果を地域づくりに活用することが一層求められている。講師などの人材情報の集約と整理を行い、コミュニティセクター等と情報共有を進め、各地域で活用できるようにするほか、学んだ人がその成果を地域づくりにいかせる仕組みの構築に取り組む。</p>	A

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
62 学校開放経費 〔スポーツ振興課〕	258	238	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、令和2(2020)年2月29日から6月18日まで、市内全校で利用を中止した。その後、利用人数や時間の制限、使用後の消毒作業を義務付けるなど対策を講じた上で、段階的に利用を再開。31対象施設を216団体が延べ6,261回利用し、利用人数は延べ98,563人。対前年比で6割程度の実績となった。	○ 感染防止対策を講じた上で、学校体育施設を有効活用することで、運動する機会・場所の確保に貢献した。 ● 引き続き感染症予防対策の徹底を図る必要がある。また、コロナ禍での調整会議の持ち方、受益者負担の在り方、利用のしやすい手続の方法等を検討していく必要がある。	A
63 スポーツ推進委員費 〔スポーツ振興課〕	3,413	3,216	新型コロナウイルス感染症の影響で、活動が難しい状況であったが、地区体育協会と連携し、各種行事を実施するとともに、月例研修会では感染症対策の座学を取り入れるなど、積極的に活動を継続した。また、障がい者、外国人がスポーツと触れ合う機会を提供する取組を継続して実施した。	○ コロナ禍ではあったが、様々な工夫をしながら感染症防止対策を講じた上で、地域の方々からスポーツを楽しんでもらい、交流する機会を提供することができた。 ● 地域のスポーツ振興を支える上で、感染症対策を含めウィズコロナ時代に適したスキルの向上が望まれる。また、少子高齢化・過疎化の進行等に伴い、その成り手の確保が課題となっている。	A
64 市町村生涯スポーツ振興事業 〔スポーツ振興課〕	1,286	758	市内中学校運動部活動に専門指導者(スポーツエキスパート)を派遣する事業で、その指導報酬やスポーツ安全保険料を市費で負担した。1回当たり報酬3,000円、年間30回を上限として14人分を予算措置し、その結果6校に10人の指導員を派遣した。	○ 中学生に対して、競技の説明、練習方法等を的確かつ丁寧に指導する機会を設けた。 ● 部活動指導員事業と専門指導者(スポーツエキスパート)派遣事業制度のバランスを取りながら、部活動指導員事業の促進を図っていく必要がある。また、中学校部活動の地域移行について、関係各方面と連携しながら対応を進める必要がある。	A
65 スポーツ事業支援経費 〔スポーツ振興課〕	22,660	21,236	(一財)柏崎市スポーツ協会、地区体育協会に補助金を交付し、市民スポーツの普及・振興を図ったが、新型コロナウイルス感染症の影響で、実施できなかった事業分については、返戻等の減額措置を取った。	○ コロナ禍ではあったが、関係団体と連携し感染防止対策を講じた上で事業を実施した。厳しい状況ではあったが、競技スポーツの振興や地域における生涯スポーツ振興、健康・体力づくりの推進に結びつけることができた。 ● ウィズコロナ、アフターコロナを見据えたスポーツ振興について関係団体と連携しながら進めていく必要がある。また、教員の多忙化解消と働き方改革の観点から進められている中学校部活動の地域移行に、広範な連携・協力を検討する必要がある。	A

(2) 全国や世界に通用する競技者を育てる
 アイウ
 競技団体の連携の強化と指導者の育成
 競技力の向上に向けた取組の推進
 施設の整備と改修

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
選手強化事業 [スポーツ振興課]	5,300	3,850	県の強化指定を受けている3競技(水球・陸上・ハンドボール)団体に対し、地域ジュニア競技スポーツクラブ育成事業補助金を交付し、小中高生の選手強化を図った。また、選手派遣費補助金では、新型コロナウイルス感染症の影響で、小・中体連主催大会の中止が相次いだ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍で、多くの大会・競技会が中止になったが、3競技(水球・陸上・ハンドボール)団体では、中学・高校生が県内大会で活躍し、各種代替大会への出場を果たした。また、上越大会以上の大会への選手派遣費補助金は、多くの大会が中止となる状況ではあったが、秋季・冬季に開催された駅伝大会、スキー大会に出場する選手に支援を行った。 ● 県の強化指定を受けている3競技の活動支援、選手強化を継続し、ジュニア世代の競技力の維持・向上を図る必要がある。また、選手派遣補助金は、選手強化に果たす役割が大きいため、継続する必要がある。 	A
体育施設備品購入経費 [スポーツ振興課]	828	780	ダンベルラック、卓球台、テニス用支柱、スポーツミラーを購入した。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育施設における備品の購入を行い、各施設利用者の利便性の向上につながった。 	A
国際大会等出場奨励事業 [スポーツ振興課]	200	0	新型コロナウイルス感染症の影響で、東京オリンピック・パラリンピックの延期を始め、他の国際大会への出場もなかったため、予算執行なし。	<ul style="list-style-type: none"> ○ ー ● 競技スポーツの振興とスポーツ活動を奨励するため、引き続き事業を継続する必要がある。 	-
スポーツ合宿誘致事業 [スポーツ振興課]	250	250	柏崎市スポーツ合宿誘致推進連絡協議会に負担金を支出し、誘致活動を行う。新型コロナウイルス感染症の影響で、積極的な誘致活動はできなかったが、収束後の再来訪につなげるため、地元特産品の発送などを実施した。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 合宿実施の実績は、3月末に行われた水球女子日本代表合宿1件のみ。 ● ウィズコロナ時代の合宿、スポーツ施設の稼働率が悪い平日の時間帯における利活用、スポーツ合宿のターゲットの拡大(競技スポーツ以外、障がい・生涯スポーツ)を検討する必要がある。 	B

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
白竜子ニスココースト整備事業 〔スポーツ振興課〕	167,000	164,534	人工芝の張り替え(93,250,300円、全6面、3,940㎡)ナイター照明柱の建て替え及びLED化改修(71,283,300円、全14本の照明柱のうち12本)を実施した。照明柱の残り2本は、管理棟・倉庫棟の改築と合わせて、令和3(2021)年度に建て替えを行う予定。	○ 人工芝の張り替えと合わせて暗渠排水の改修を行ったことで水はけの悪さも解消した。照明については、利用者の意見を参考に、照度や照射角度の調整を行った。利用者の利便性向上につながる改修となった。 ● 引き続き、安全・快適な施設を利用者に提供するため、適切な維持管理を行う必要がある。	A
県立柏崎アクアパーク整備事業 〔スポーツ振興課〕	56,945	56,459	新潟県による3か年の大規模改修工事の3か年目。アイスリンクの製氷用機器の入替え、換気用排煙窓・非常口ドアの改修等を実施した。 また、外壁タイルの落下により通行できなくなっていたコリドールの修繕を実施した(45,166,000円、県費負担あり)。水上整備車(中古)を購入した(5,830,000円)。	○ 競技用プール、レジャープール及び冬季アイススケートリンクからなる複合スポーツ施設として、機能の維持と利用者の安全性の確保が図られた。 ● 建設から28年が経過し、施設各所に傷みが生じている。新潟県と連携し、改修を進める必要がある。	A
水球のまち柏崎推進事業 〔水球のまち推進室〕	10,893	8,474	新型コロナウイルス感染症の拡大により、オリンピックの延期を始め、アジア各国の水球合宿誘致も実施できなくなるなど大きな影響を受けたが、台湾からの水球留学生受入れや、セルビア共和国、モンテネグロ両国とは、児童が描いた絵画の相互交流の実施により、文化交流を始め、郵便局包括また、水球の可視化を狙う取組として、郵便局包括連携協定を活用した郵便配達車両への水球ステッカー貼付や水球ラッピングポストの設置(半田郵便局、田尻郵便局の2か所)、バスターの装飾(駅前、市民プラザ前の2か所)、水球マントール設置(新設9か所、計10か所)、水球ランドセルカバーの取組(新一年生用278枚、3回目)などを実施した。 海で水球in柏崎を、7/11笠島漁港、8/1柏崎港で開催し、合計約600人の来場者が訪れた。	○ コロナ禍で想定した事業は実施できなかったが、文化交流など新たな芽出しは進めることができた。また、可視化事業の継続実施や市内在住の外国人とのスポーツ交流にも取り組んだ。 ● 水球の世界的な強豪国であるセルビア共和国、モンテネグロ両国やアジア圏の水球チームとのつながりを更に強め、「水球のまち柏崎」の世界的な知名度の向上を図り、水球を通じた国際交流の裾野を一般市民(特に児童、生徒)に広げる必要がある。また、柏崎市在住の外国人とのスポーツによる交流を推進し、市民の国際感覚の向上に貢献する。	A

4 歴史や文化の息づく「柏崎らしさ」をつくる

【第五次総合計画・前期基本計画における施策の方針】

- ① 古くから伝承されてきた伝統芸能や年中行事、地域産業の発展に尽力された先人の営みや偉業などによる固有の歴史や文化など、魅力ある資源に触れる機会を充実することで、まちへの誇りと愛着を醸成し、市民自らが主体となって将来にわたり、確実に継承できる環境づくりを進める。
- ② 歴史・文化資源の保存と活用のほか、景観法に基づく景観行政団体として、魅力ある街並み景観を形成し、優れた歴史的・文化的景観の保全・活用に取り組む。
- ③ 民間が持つ創造力と知見を活用しながら、市民自らが主体的に取り組む文化・芸術活動の推進を図り、文化芸術の創造性をいかした魅力あるまちづくりに取り組む。
- ④ 教育機関や文化芸術団体の合宿、国内外のアーティストによる指導会を誘致するなど、多様な文化交流を推進する。
- ⑤ 子どもや若者の創造的な才能を最大限伸ばせるよう、文化創造の機会を充実する。

◆ 主な事業

文化・生涯学習課

- 文化会館管理運営費
コロナ禍ではあったが、対策を十分にとりながら、民間の活力をいかして良質な芸術文化作品の鑑賞機会の充実や、市民の発表・公演の活動支援等に取り組むことができた（令和2(2020)年度入館者数74,042人）。
 - 市美術展覧会費
市民の日頃の創作活動の成果を発表する機会として、市美術展覧会を10月1日（木）から11月30日（月）までWEB上で開催した。また、2月11日（木）から2月14日（日）までアルフォーレマルチホールを会場に入賞作品展を開催した。
（市展WEB展示場は、出品者数202人、作品展示数 250点、アクセス数は、延べ3,754人、入賞作品数は、作品展示数39点、来場者数617人）
 - 文化振興支援事業
文化会館アルフォーレ、柏崎芸術協会、柏崎音楽協会と市の4団体で「古典を活かした柏崎地域活性化事業実行委員会」を組織し、11月1日の「古典の日」にちなみ、「柏崎古典フェスティバル」を実施した。ワンコインで楽しむ日本の伝統楽器は、入場者156人、アルフォーレ特選寄席は入場者290人だった。※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、舞踊劇「綾子舞物語」と綾子舞アルフォーレ公演は中止
- #### 博物館
- 柏崎市内遺跡発掘調査事業
県営ほ場整備事業・市道改良工事・民間開発等に伴い事前の試掘・確認調査などを行った（試掘・確認調査6件、工事立会14件）。また、令和元(2019)年度に実施した試掘・確認調査などの報告書1冊を刊行し、埋蔵文化財保護をすることができた。
 - 都市整備関連遺跡調査事業
藤元町西遺跡の発掘調査報告書を刊行することにより、発掘調査成果を公開することができた。
 - 綾子舞後継者育成事業
人口減少により伝統芸能の後継者不足が全国的な問題となっている中、伝承者養成講座と伝承学習を2本柱に後継者育成を継続している。その中で、伝承学習においては、新道小学校及び南中学校の児童・生徒を対象とした課外クラブ等とすることで参加者の確保に努め、令和2(2020)年度は、60名の参加を得ることができた。なお、練習は例年より広い場所を確保するなどの感染症対策を継続して行った。

(1) 歴史・文化を保全・活用し、継承する
アイウエ

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
柏崎市内遺跡発掘調査事業 〔博物館〕	12,292	7,786	県営ほ場整備事業・市道改良工事・民間開発等に伴い事前の試掘・確認調査などを行った(試掘・確認調査6件、工事立会14件)。また、令和元(2019)年度に実施した試掘・確認調査などの報告書1冊(令和2(2020)年12月)を刊行した。	○ 試掘・確認調査の実施及び報告書を刊行して、埋蔵文化財を保護することができた。 ● 県営ほ場整備事業対応のための調査経費が増加している。また、年度当初に予定していた調査のほかにも緊急な対応を求められる場合がある。さらに、開発事業の変更によって、調査の内容も異なってくることがあるため、本事業の推進にはその都度計画の見直しが必要となっている。	A
未報告資料整理事業 〔博物館〕	1,691	423	未報告遺跡の報告書の作成に向け、出土品・記録類の整理作業を行った。	○ 未報告遺跡の報告書の作成に向け、出土品・記録類の整理作業をして、埋蔵文化財保護をすることができた。 ● 報告書未刊行の解消のため、出土品や記録類の整理を継続的に行っているが、予定外事業等の影響により、計画的な報告書刊行目標を立てにくいことが課題である。	A
都市整備関連遺跡調査事業 〔博物館〕	2,105	867	令和元(2019)年、藤元町地内市道(11-107号線)改良工事に伴い実施した、藤元町西遺跡の発掘調査に係る発掘報告書を刊行した。	○ 藤元町西遺跡の発掘調査報告書を刊行して、埋蔵文化財を保護することができた。 ● 今後も市道改良工事に伴う発掘調査報告書を計画的に刊行し、調査成果を市民ニーズに応じて活用し、埋蔵文化財の理解を深めていくことが必要である。	A
軽井川南遺跡群調査事業 〔博物館〕	6,751	5,397	柏崎フロンティアパーク事業に伴う発掘調査の整理作業を、平成19(2007)年度から継続して実施している。6冊目の発掘調査報告書を刊行し、発掘調査が完了した。	○ 柏崎フロンティアパーク事業に伴う発掘調査の整理作業を、平成19(2007)年度から継続して実施し、全ての報告書を刊行することで埋蔵文化財保護をすることができた。 ● 調査成果を市民ニーズに応じて活用し、埋蔵文化財の理解を深めていくことが必要である。令和3(2021)年度は、一般向け小冊子を作成する。	A
県道関連遺跡調査事業 〔博物館〕	100,102	67,499	一般県道黒部柏崎線道路改築工事に伴い大字山本・長崎地内の西岩野遺跡において約1300㎡を対象に記録保存のための本発掘調査を実施した。	○ 年次計画範囲の本発掘調査を確実に実施し、県道事業に支障を及ぼすことなく埋蔵文化財保護をすることができた。 ● 博物館で出土品を展示公開し、西岩野遺跡の理解を深めてもらうことができた。 ● 発掘調査は令和4(2022)年度まで継続して実施する予定であり、計画的に遂行するとともに、調査成果を市民へ公開する必要がある。	A

73

74

75

76

77

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
綾子舞後継者育成事業 〔博物館〕	1,649	1,368	「綾子舞伝承学習」を、伝承地を校区とする南中学校と新道小学校を対象に実施した。 期間 6/9～11/6、延べ8回開催 参加児童生徒数 60人（前年度73人） そして、「綾子舞伝承者養成講座」を2つの座元（下野、高原田）において実施した。 期間 6/2～11/19、延べ36回開催 延べ参加者数 673人（前年度617人） なお、感染症対策として、いずれも開始時期を約1か月遅らせ実施した。	○ 感染症対策を行いながら、郷土の伝統芸能を継承するための後継者を育成することができた。 ● 人口減少などの影響により、新道小学校及び南中学校の児童・生徒を対象にした綾子舞伝承学習への参加者や指導者の継続的な確保が課題である。後継者育成を途絶えさせることなく確実に継続していくことが必要である。	A

78

(2) 市民の主体的な文化活動を支援する アイ 市民の文化活動への支援 多様な文化交流の推進

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○＝成果 ●＝課題・今後の取組	評価 ランク
文化会館管理運営費 〔文化・生涯学習課〕	150,246	150,242	文化会館アルフォーレの管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設設置目的に掲げる事業の企画及び実施に関する業務、施設の維持管理に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。 ・年間利用者数 74,042人（前年度比 81,369人減） ・アルフォーレ自主事業 来場者満足度98%	○ 市民の文化活動の発展と新型コロナウイルス対策の一環として、大ホールでのスモーク換気実験を実施し、メディアを通じて安全性をアピールするなど、新型コロナウイルス感染症に対応できる文化施設の実現化を図った。 ● 「ウイズコロナ」を視野に入れながら、文化会館アルフォーレの管理運営に民間が持つ創造力・知見を活用することにより、市民の主体的な文化活動が日常的に行われる場として定着させていく必要がある。	A
産業文化会館管理運営費 〔文化・生涯学習課〕	56,213	56,182	産業文化会館の管理に関する基本協定に基づく業務（利用の許可に関する業務、施設設置目的に掲げる事業の企画及び実施に関する業務、施設の維持管理に関する業務ほか）を指定管理者が適切に行った。 ・年間利用者数 27,793人（前年度比 35,547人減）	○ 国による特統化給付金事業の説明会など、新型コロナウイルス感染症に関連した事業への貸館の協力等により、コロナ禍の中、施設利用の維持を図った。 ● 産業文化会館の特性をいかす形で、市民の主体的な文化活動が日常的に行われる場として維持させていく必要がある。	A
市美術展覧会費 〔文化・生涯学習課〕	2,039	1,657	・市民の日頃の創作活動の成果を発表する機会として、市美術展覧会を10月1日（木）から11月30日（月）までWEB上で開催した。 出品者数 202人（前年度比 93人減） 作品展示数 250点（前年度比 95点減） アクセス数 延べ3,754人（前年度来場者数 3,270人） ・2月11日（木）から2月14日（日）までアルフォーレマルチホールを会場に入賞作品展を開催した。 作品展示数 39点 来場者数 617人	○ 新型コロナウイルス感染症対策に対応しながら作品受付、写真撮影（運営委員により作業）を実施し、WEB上での展示を行った。同様に、アルフォーレマルチホールを会場に入賞作品展を当初予算内で開催した。 ● 60年を超える伝統ある市美術展覧会であり、市民の創作活動の成果を発表する機会を提供するともに、市民の美術に対する関心を高めるため、今後にも継続して開催していく必要がある。	S

79

80

81

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
文化振興支援事業 〔文化・生涯学習課〕	2,109	801	文化会館アルフォーレ、柏崎芸術協会、柏崎音楽協 会及び市の4団体で「古典を活かした柏崎地域活性 化事業実行委員会」を組織し、「柏崎古典フエス ティバル」を実施した。 ・フロンラインで楽しむ日本の伝統楽器 ～箏と尺八の響き 入場者156人 ・アルフォーレ特選寄席 入場者290人 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、舞踊 劇「綾子舞物語」は次年度に延期、綾子舞 フォーレ公演は中止	○ 11月1日の「古典の日」にちなみ、「柏崎古典フエ スティバル」を実施し、民間が持つ創造力と知見を 活用しながら、良質な古典の鑑賞機会や文化芸術に 親しむ機会を提供することができた。 ● 「ウイズコロナ」を視野に入れながら、市民一人ひと りが文化芸術を身近に感じ、親しむことのできる 魅力あるまちづくりを目指すため、今後も新たな文 化交流の発展を進めるとともに、市民の関心や理解 が深まる文化芸術活動に対し支援をする必要があ る。	B

5 その他教育関係事務事業

事務事業名	予算現額 (千円)	決算額 (千円)	事業概要・実績	○=成果 ●=課題・今後の取組	評価 ランク
人権・同和教育事業 〔文化・生涯学習課〕	10	0	12月の人権週間に合わせて、市民プラザでミニ人権パ ネル展を実施し、人権に関する啓発を行った。 人権、同和教育のパネルの他に新しく、新型コロナウイルス ウィルス感染症に伴う人権配慮のパネルを作成し、 約1か月間掲示し、啓発活動を実施した。 掲示場所もできから2階の通路に掲示場所を変更し実 施した。 県主催の人権教育行政担当者研修会には、参加する ことができたが、他の研修及び部落解放新潟県研修 会、いのち・愛・人権展は、新型コロナウイルス感 染症の影響により、中止となった。	○ ミニパネル展では、人権週間や、同和教育の啓発に 加え、新型コロナウイルス感染症に感染した人や対 策に携わった人等に対する差別、偏見を止めること や周囲への思いやりができていくかのチェック表、 シトラスリボンプロジェクトの紹介をした。また、 同時に、無料配布用としてシトラスリボン作成チラ シ3種類を10枚ずつ掲示していたが、2回補充を したことからすれば啓発活動につながったものと考 えている。 ● 人権問題は、様々な場面で起こり得るものであり、 また、様々な人権課題の分野に及んでいることか ら、これからも新たな問題の発生が予想される。今 後も関係各課と連携して市民への継続的な教育及び 啓発活動を実施する必要がある。	B

食育	市民が自らの「食」について考える習慣を身に付け、生涯を通じて健全で安心な食生活を実現することができるよう食品の安全性、食事と疾病との関係、食品の栄養特性やその組合せ方、食文化、地域固有の食材等を適切に理解するための活動
I C T	インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジーの略。情報通信技術。従来、用いられてきた「I T」とほぼ同様の意味で用いられるもので、国際的にはI C Tの方が定着している。
デジタル教科書	デジタル機器や情報端末向けの教材のうち、既存の教科書の内容を閲覧するためのソフトウェア。閲覧のほか、編集、移動、追加、削除などの基本機能を備えている。
G I G A スクール構想	1人1台端末と通信ネットワークを一体的に整備することで、これまでの教育とI C Tのベストミックスを図り、子供たちへ学習活動（一斉学習、個別学習、協働学習）の一層の充実させるための国の構想。G I G Aとは、Global and Innovation Gateway for Allの略

〔参考〕

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について

(平成19年7月31日19文科初第535号事務次官通知)

※現行法の第26条

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む）を含む）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価部分抜粋

第一 改正法の概要

1 教育委員会の責任の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理および執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととした。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしたこと。(法第27条)

第二 留意事項

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

- ① 今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。
- ② 現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取組を行っている場合には、その手法を活用しつつ、適正に対応すること。
- ③ 点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者から意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。